

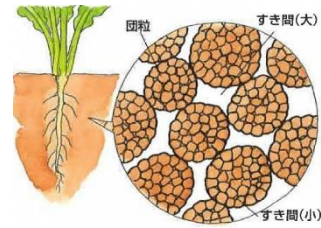


1 堆肥について

ほ場に堆肥など有機物を施すことがよいと言われますが、何が良いのでしょうか？
今回は、堆肥について紹介します。

【堆肥施用の効果】

- ① **土づくり的效果**: 土壌の物理性(保水性、排水性、通気性など)、化学性(地力、保肥能力)、生物性(土壌微生物、小動物)を改善
- ② **肥料的効果**: 作物に養分を供給する



【堆肥施用の注意点】

- ① **施用から作付けまでの期間**: 施用後、すぐに作付けると生理障害が起こる可能性がある。
※ 完熟堆肥は1週間、未熟な堆肥は少なくとも2週間以上
- ② **土壌診断の実施**: 連続で施用するとバランスが崩れて生理障害が発生する可能性がある。
定期的に土壌診断を行い(JAアグリラインなど)、診断結果に基づいて施用する。
- ③ **熟成度**: 未熟な堆肥は、残っている有害成分や有害ガスの発生等で根を傷める。
- ④ **堆肥の成分**: おがくずなど木質系が混ざっている場合は、窒素が土壌微生物に奪われて、窒素不足になる場合がある。

【良質堆肥の見極め方】

- 色は完熟になるほど黒っぽい
- 未熟なたい肥は、アンモニア臭や悪臭がする → さらに熟成させてから使う
- オガクズや稲わらのような副資材が入った堆肥は、副資材が指で簡単につぶれる場合を完熟と判断する



2 主な堆肥の種類

堆肥の種類	特徴
牛ふん堆肥	・窒素成分は1%前後と低い&分解が遅く、 <u>肥料としては期待できない</u> ・ <u>物理性改善の効果</u> に優れる ・ <u>カリ</u> が比較的多い
豚ふん堆肥	・窒素成分は2~3%で分解が比較的速く、 <u>有機質肥料に近い肥効</u> ・ <u>リン酸</u> が多い ・木質系の副資材の混合が少ないものは、 <u>急速に分解するので、ガス害に注意</u>
鶏ふん堆肥	・窒素成分は3%前後で分解が早く、 <u>有機質肥料として扱える</u> ・ <u>リン酸</u> が多く、 <u>採卵鶏のものは石灰も多い</u> ・木質系の副資材の混合が少ないものは、 <u>非常に急速に分解するのでガス害に注意</u>
乾燥ふん	・家畜ふんを乾燥させ、取り扱いやすくした物 ・窒素成分は4~6% ・分解が速く、 <u>有機肥料として利用できるが、ガス害や熱害に注意</u>

例) 窒素1%の牛ふん堆肥1tが含む窒素は10kg うち、植物が利用できる窒素は1~4kg程度
リン酸とカリはどのたい肥も80~90%利用でき、速効性である

◎お問い合わせはお近くの農協まで◎

JAおおぞら本店	52-3813	JA内浦町	72-2678	JAすずし中央支店	82-6400
// 輪島支店	23-1220	JAすずし営農経済センター		// 宝立支店	84-1311
// 穴水支店	52-1172		82-7505		
// 門前支店	42-0514	// 西海支店	87-2014		
// 能都支店	62-2130	// 日置支店	86-2211	奥能登農林総合事務所	26-2323
// 柳田支店	76-1236	// 三崎支店	88-2041	珠洲農林事務所	82-3113
// 町野支店	32-1107	// 正院支店	82-0409		